

第 12 回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会議事概要

I. 開催日時および場所

日時：2016 年（平成 28 年）5 月 18 日（水）13:00～15:00

場所：富岡町教育委員会 郡山事務所 大会議室（郡山市桑野 2-1-1）

II. 委員

別紙名簿の通り

III. 資料

- 議事次第・席次表
- 資料 1 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会委員名簿（H28.5.18 版）
- 資料 2 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会（第 11 回）議事概要
- 資料 3 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進計画書
- 資料 4 平成 28 年度ビジョン実施計画（2016/05/18 版）
- 資料 4-2 平成 28 年度ビジョン実施体制・委員会構成
- 資料 5 「ふるさと創造学」教員研修会（4/21）実施報告
- 資料 6 双葉郡学習支援拠点案内チラシ

IV. 議事内容

1. 開会

1) 開会挨拶（武内敏英 大熊町教育委員会教育長）

- 持続可能な組織運営のため、現場教職員等による委員会制を、改善を加え今年度も継続
- 昨年度末に策定した推進計画書は、現行の取組の進展や新たな課題への対応を視野に入れ、当協議会全体の取組を定めたもの。期間は平成 28 年度から 3 か年とし、各年度別途実施計画を策定して取組を進めていく。検討の始まった福島県双葉地区教育構想とも連携する
- 双葉郡内では、未だ 6 校の小中学校が休校中で、再開した学校も仮設校舎等での運営を余儀なくされている。児童・生徒数も震災前の一割に留まり、今後帰町・帰村し学校再開を果たす町村も厳しい状況にある。こうした現状を直視し、「教育の復興なくして双葉郡の復興なし」を心し、将来を見据えた教育復興に取り組んでいく

2) 自己紹介

2. 前回議事概要確認【資料 2】

- （全会）承認

3. 議事

1) ビジョン推進協議会に係る取組について

(1) 今年度の各取組進捗と体制【資料4】【資料4-2】

- 昨年度の取組及び体制を引継ぎ、8町村各校の教職員による委員会制で各取組を推進
(委員質問)
- 事務局法人化について、現時点で方向性はあるか→現行の取組を推進していく上で、体制・仕組みづくりが今後の課題だという点を前回の協議会で確認した。方向性については今後、双葉地区教育長会で検討し、協議会事務局と相談していく

(2) 「ふるさと創造学」教員研修会(4/21実施)報告【資料5】

- 昨年度の「ふるさと創造学」の成果として、サミットの発展、取組事例集の作成が挙げられる。推進計画書が作成され今年度は、ビジョン3つの柱を「ふるさと創造学」でどのように実現できるかを考えていく。「ふるさと創造学」の学びは次期学習指導要領の方向を先取りしていると考えられる。具体的には、「双葉郡ならではの魅力的な教育」の推進として、まずは8町村が連携し、最先端の教育をどう施せるか模索していきたい
- 今回の研修(田村視学官による指導)は、次期学習指導要領の考え方を授業でどのように実践するかという視点で取り組んだ。また、今年度双葉郡に着任した校長に対しては、ビジョンについてや「ふるさと創造学」の意義について畠山教育長から説明した
- 今後は評価の在り方の検証に取り組んでいく予定。また多くの保護者は、大規模校と同じ質の教育を受けられるかに関心がある。「ふるさと創造学」の取組をその一つにできないかと考えている

(委員質問)

- 少人数制は学校の魅力にならないのか→多くの保護者にとって必ずしも魅力とは映らない。双葉郡内の小中学校に通う児童・生徒は、避難先の学校になじめず転学してくる子供も少なくない。小学校から中学校にあがる時、部活動に取り組めないのではという点から、避難先自治体の学校に進学するケースもある。6月に葛尾村・川内村・富岡町の小学校4校合同で算数の授業研究会を実施する予定で、こうした取組も一助にしていきたい
- 保護者にとって大規模校のどの点が魅力なのか、分節化し検証する必要もあるのではないか

(3) 次年度取組の方向性について

- 前回の協議会で承認された「ビジョン推進計画書」(平成28年3月29日)に基づき進める
- 具体的な取組としては、今年度同様「ふるさと創造学」を中心にサミットや交流会、教員研修といったイベントと、広報誌やウェブサイトによる発信を行う
- 「双葉郡教育復興推進事業」(国予算、県主体)は来年度3年目となり、特に①ふるさと創造学の成果検証、②情報発信のさらなる強化、③事業継続のための事務局体制の維持・充実を重点課題としたい

(委員意見)

- 体制が整理されビジョンの具現化が進んでいると感じる一方で、活動自体が個別取組になっているように感じている。既存の枠を越える活動も今の双葉郡には必要ではないか。教育はイノベティブな場だということを発信できないか

- 学校自体が内に関き、教員同士の交流・議論がさらに活発になるようにしたい。一方、外に関くという意味では、地域学校協働本部（学校支援地域本部から変更）の取組も、学校と地域の双方向の交流を促進するものとして、双葉郡でも進めていきたい。いわきからは、生徒会サミット等の取組に参加しないかという打診もあり、飯館、南相馬とともに検討したい

2) 福島県立ふたば未来学園中高一貫について

- 開校 2 年目を迎えたふたば未来学園高校は、政府主催の地方創生アイデアコンテストで協賛企業賞を受賞するなど、先進的な教育の成果を出している
- 本設校舎の設計・建設については、H31 年 3 月完成を予定し、今年度中に計画を策定する
- 併設中学校については、今後検討協議会を設置し検討していく

3) その他

- **【資料 6】 補足説明** 学習支援拠点について、昨年度同様の拠点数・実施回数で継続実施。ビーンズふくしま運営の郡山拠点は「ふたば開成学舎」と名付け、双葉郡の子供たちが通いやすいよう配慮いただいた。また県北地区の拠点は浪江町が、文部科学省「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」として一括して実施する予定
- 昨年度いわき駅前で行ったフリースクールの活用例として、不登校気味だった生徒が、フリースクールを利用した結果、学校へ復帰し、その後継続して登校したケースを共有
- 文科省より、「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」は現在二次募集（6 千万円規模）を行っている。積極的に活用していただきたい
- ふたば未来学園高校では、6 月 8 日（水）に行う平田オリザ氏演出の演劇公演を、広く地域の方々に観賞いただけるように案内する
- 帰還する町村の学校や、サテライト高校に対し、本校舎におけるコミュニティスペースの活用など、ふたば未来学園高校としてできることがないか考えている。また他地域との交流は大変有意義だったので今後も行っていきたい。協議会としては予算確保が課題だと感じている
- 12 月 18 日に行う県高校文化連盟の発表では、サテライト高校の校歌を歌う予定がある
- 県教育委員会としても、休校するサテライト高校、帰町・帰村する学校への支援を行っていく。コミュニティスペースについては、地域も含めて具体的な議論が進むことを望む
- 飯館村も南相馬市もふるさとへの誇りを持った子供を育てたいという思いを持っている。双葉郡の実績を共有していただけるよう、相双教育事務所などと連携し、研修や発表会に声をかけてはどうか
- 文部科学省でも義務教育上の制度改革や次期学習指導要領の議論も進行中であり、アドバイスや支援ができる部分もあるかと思う

4. 閉会

以上